

11月27日(日) ショートメッセージ

聖書 マタイによる福音書 23章29節～39節 (新約 46頁)  
メッセージ 「主の名によって来られる方に」

言うておくが、お前たちは、『主の名によって来られる方に、祝福があるように』と言うときまで、今から後、決してわたしを見ることがない。

(マタイによる福音書 23章39節)

(1) 23章では、律法学者やファリサイ派の人たちが猛烈に非難されていますが、実際のイエス様はファリサイ派の人たちをそこまで敵視していなかったと聖書学者たちは言います。では、なぜここまで厳しい非難の言葉が書き連ねられているのでしょうか。マタイ福音書が書かれた当時、小さな群れであったキリスト者たちはユダヤ人のコミュニティから外され、迫害されていました。迫害される側からの厳しい告発、それがこの箇所にも込められているのでしょうか。当時、少数者だったキリスト者たちは迫害する者におもねることなく信仰を保ってきましたが、この激しい非難の言葉がかえってキリスト者たちの信仰を支える力にもなったのかもしれない。

(2) 先週の続きです。第7項(29節～33節)では、預言者や義人を受け入れずに殺してきたユダヤの歴史を指摘します。あなたがたは、預言者や義人の墓や記念碑を建てている。しかし、こうして葬りなおすことによって、再び預言者たちを殺し、迫害してきた者たちの子孫である事を自ら証明していると厳しく非難します。

そして第8項(34～36節)で、あなたがたは、預言者たち、人々の心を神の御心へと向けようこの世に遣わした者たちを、今なお迫害していると指摘します。アベルの物語は、創世記4章に登場します。また、ゼカルヤは歴代誌下に登場する預言者のことを指すと言われています。預言者

ゼカルヤはユダヤの王に殺される際、こう言い残します。「主がこれを御覧になり、責任を追及してくださいませうに」(歴代誌下24章22節)。このように歴史の反省が無いと、あなたがたは今もキリスト者を迫害しているとの告発もこの言葉に込められています。

8項目にもわたる激しい非難の言葉の後、預言者や義人たちを通して何度も何度も悔い改めを呼びかけてきたのに反省せず、今なお迫害を繰り返しているエルサレムの指導者たちを嘆き、エルサレムを見放す言葉が伝えられます。初代のキリスト者を迫害するあなたがたは、神によって見捨てられ荒廃する。自らを顧みて反省して悔い改める時が来るまで、今から後、決してわたしを見ることはない。悔い改めへの呼びかけで23章は締めくくられます。

(3) 本日からアドベントに入ります。アドベントは、イエス・キリストがこの世界に与えられたことを喜ぶことを通して、「主の名によって来られる方に、祝福があるように」(39節)との思いを神さまに献げ、主イエス・キリストと出会う時です。しかし、ここでのファリサイ派や律法学者たちと同じように、もし私たちが、神の慈しみとまこととを告げる者たちを葬り去る事を繰り返しているならば、残念ながらその出会いは空疎なものとなることでしょう。アドベントに際し、悔い改めへと導かれていることに感謝します。(多田玲一牧師)